

大学病院水準の医療体制を目指し
地域に根差した医療を提供

眼科専門医としてキャリアを積み重ね、高木院長が専門としてきたのが網膜硝子体疾患。眼球の最も内側にある網膜の疾患、例えば網膜剥離や糖尿病網膜症、さらには網膜の中心部に存在する黄斑の疾患に対しても手術経験を積み重ねてきた。

高い専門性と豊富な臨床経験をもつ高木院長が在籍していることも、同院の大きな特徴だ。加えて、大学病院等でも用いられている検査機器や手法を取り入れている点も強みといえる。その環境を支える一つの要素に最新の機械設備が挙げられる。例えば、OCT（光干渉断層計）と呼ばれる機械で、網膜の断層画像を撮影することで行う検査。同院では、SS-OCT（スウェプトソースOCT）方式の光干渉断層計OCT-1を導入しており、網膜をより広範囲に、かつ細かな断層や血管まで検査することを可能にしている。

この検査技術により造影剤を用いずに糖尿病網膜症や加齢黄斑変性の検査が行える。「黄斑円孔の治療は、眼内にガスを注入し、患者さまに俯きの姿勢をしてもらうことが一般的です。俯き姿勢により浮上したガスが網膜を押さえつけることで、開いた穴が塞がれる。実際、黄斑円孔は従来入院が必要で、その間患者さまには俯き姿勢を維持してもらわないといけなかったのです。しかし、OCTの検査技術で円孔が閉じていることが確認され

見える力を守るための 専門眼科という選択

加齢だけでなく、生活習慣の影響で発症する眼科疾患。正常な視覚を保つには、早期発見・早期治療が重要だ。

そうした中、先進的な医療環境と長年培ってきた専門性をもとに診療を行うのが、川崎・多摩アイクリニックだ。院長の高木均氏に、同院の独自性について話を聞いた。



大学病院で長年経験を積み重ねてきたため、同等の環境を実現したいという高木院長。その想いは最新鋭の機器の導入や万全な手術体制に表れている

が見えなくなってしまう。そうした場合には超音波を用いることで眼球内の様子が分かり、より多角的な評価につなげることが可能になります。症状をより的確に検査することで、緊急性の高い判断ができる。具体的には、一刻を争う網膜剥離などの症状の早期発見、および早期治療につなげることができ、診断の上で非常に大きな助けになっているという。

眼科疾患は最悪の場合、症状の放置が視覚に深刻な影響をもたらすこともある。こうした万全な設備や体制は、高木院長いわく「これこそ、私ができる患者さまに対する最大の貢献」だという。

眼科領域の進歩、そして患者のQOL向上に貢献しつつある

ば、俯き姿勢を維持する必要がある大幅に減少します。これは網膜剥離も同様です。OCTにより剥がれた膜が正常に戻っていることが分れば、俯き姿勢の維持だけでなく、症例によっては入院を要しないケースもあります」と高木院長は話す。

高度な専門性をもって手術や診療にあたる同院。網膜硝子体学会の理事も務めた高木院長はその知見を公にすることで、眼科医療に貢献していきたいという。「実際、黄斑円孔の治療では手術翌日に穴の閉鎖が確認される症例も報告されており、網膜硝子体

同院でも複数種類を扱っており、保険適応の手術費用に追加費用を加えた選定療養対象レンズ（片眼あたり32万9000円から39万5000円）と、自由診療対象レンズ（片眼あたり80万円、85万円）、ICL（片眼あたり33万、38.5万）からニーズに合わせて選択が可能だ。人々の「見える」を維持し、診療や手術を通じて改善へ導く。高木院長の挑戦は今後も続いていく。



院長／代表理事

高木均

京都大学医学部卒業。ハーバード大学研究員、京都大学講師、兵庫県立尼崎病院眼科部長、京都大学臨床教授、聖マリアンナ医科大学教授を経て現職。日本眼科学会代議員、日本眼科手術学会代議員を務める。



一般社団法人一三三
川崎・多摩アイクリニック

神奈川県川崎市多摩区登戸2428番地
NoboritoGateBuilding4F
044-931-1023
https://kt-eya.com/
■ 診療時間：
月曜～金曜 9:00～12:00/13:30～18:00
土曜 9:30～14:00
■ 休診日：日曜・祝日
■ 診療科目：眼科
※保険適用外自由診療
多焦点眼内レンズ 800,000円～（税込）
ICL 330,000円～（税込）